

D-WORK

第1回所内コンペティション

<元気でるユーメイク住宅

・暮らしのイメージ提案

WORK 第一回所内コンペ 概要

募集要項

テーマ：

明日の千葉ニュータウンに向けての

「元気のでるユーメイク住宅 ・暮らしのイメージ提案」

対象：7駅圏20住区18BL15号棟（中層）の妻住戸

課題：水回り空間及び構造壁を原則固定とした当該住戸において、どのような暮らしが、ユーメイク住宅として、また、千葉NTとして相応しいか。居住者像を想定し、間仕切り・家具配置などの住まい方提案や生活の可能性を考える。

仕様：・間仕切りの位置・家具・建具及び部屋名称を書くこと
・居住者像（年齢・性別など）を想定すること

期限：1995年4月18日（火）夜中まで

褒美：ユーメイク大賞

今後の業務に夢と希望、そして可能性を示してくれる案1点に与えられます。（若干の景品アリ）

パンフレット賞

3,000部印刷されるパンフレット「千葉ニュータウンの公団住宅」に掲載される榮譽が与えられます。

- ・内容が優れている案多数の場合には、幾つもの賞をつくり才能を愛でます。
- ・但し参加賞はありません。

審査：ディワーク・アダルト5人衆＋東京支社建築課。審査方法は6名がそれぞれ1位＝3点、2位＝2点、3位＝1点の評価をし、合計得票トップを大賞とする。（得票詳細は公表しない。）パンフレット賞は事務局が選定します。

背景：千葉ニュータウンは、「ラーバン：田園と都市の共生するまち」であり、この将来性や瑞々しさに相応しい「遊び心とバイタリティ溢れたプラン」を期待します。

作品集

ユーメイク大賞・松本 寛之 <集う住まい>

「集う住まい」～ 壁・扉ではなく、空間特性による間仕切の提案～

concept. 一つ屋根の下だから、部屋にも住む人にも連続感、全体感をもたせたい。

廊下で「こ」は「な」空間だ。
47納庫なくていい。かいてはうのびはなくて
上へ表出して、空間演出。

収納に場所をとるモノ用品
大きな自転車
はよはこく簡単に。
(増し打ちで打放し仕上とか)

入口から大きなおんに花を
くつはこのへんにめいり下す
土間と上層とで連続感、空間の移行を知らず

静的 (MB)
本棚
書斎的空間
700を70とくとなにかと便利
大黒柱ならぬ大黒テール
置屋 外と3階 18畳大
客間的空間
米
野菜とか入る。こる
見えないうちに身めてそのまゝ使わなく
なるなんてことはありませんか。

みんな調理、みんなでかたつけよう
・ 煮てもの、焼物をあそびきりやいたハハと
ヨコレガ"気になる。
・ みんなで共同作業したい
...というわけで土間にしました。

会社とのつながり・祝祭性-交流
一番いい空間になるべくみんなが使えよう。
・ アトリエなどにして職場を兼ねることもできる。

田舎島が集うような屋にした

「人と空間」、「人と物」、「個人と家族」、「家族と社会」それぞれの関係論が松本流で語られた良い案。このテーマを一般的なファミリーで展開してもおもしろいのでは。

ヨコに連なる土間～縁～居室とタテの空間の流れが大変うまくまとまっていると思います！土間、板の間、畳の素材も日本的な気持ちのいい雰囲気をつくっていると思います。願わくば、3人兄弟想定でなく、親子想定の実現にして欲しかったところです。

プランの特徴が生かされているのと同時に、これまでの公団の住まい方にはない和的な住まい方が提案されているのが魅力的。日本の集合住宅が和洋折衷の住まい方を追求してきたなかで、こうした和的な面を追求した住まいがあって欲しいという希望を込めて一押ししたい。

公団では「兄弟3人」というのが問題であるが、将来、募集条件が改善されることを前提とすると、モデルの設定と提案した住まい方（プラン）に無理が無く、住んでみたいという魅力を感じる。特に住宅の一部を土間化して、純日本的な住まい方を集合住宅の中で試みる提案を高く評価したい。他の作品に比べ「ラーバン：田園と都市の共生するまち」のコンセプトに最も近づいた住宅である。できれば、発想の中心的存在である土間空間を祭空間から南側の入り口まで連続する空間（土間と板の間がクロスするなど）にしたほうがコンセプトがより鮮明になるのではないかと。今後検討することとして生ゴミの再利用や土間に水瓶を置くなどの生活スタイルを提案できたら面白い。

間仕切りの少なさと躯体できまってくる空間の間を素直につかっていると思う。これも寝る場所のイメージがよくわからない。（広い所に雑魚寝もおもしろいけど）3人兄弟は一般性に欠けるのは難。

若々しく、大黒テーブルや土間は楽しい。祭空間と日常空間の接点ももう少しイメージ豊かであればなおよかった。

image

3人兄弟が「共同生活をする」という想定です。

南側に面した祭空間というのは、住宅の中でも一番いい環境をTAYO喫茶としたもので、不特定多数のいろんな人が集まります。

兄弟は寝る時々のそいた時間は、たいがい大黒テーブルを囲って思ひ思ひのことをしています。ときには知恵のふすま、畳をとりはらって書茶を含めて大々的につかうこともあります。3人のそれぞれの友人がどこからともなくやってくるので、10人以上の客のときなども安心してサコ寝可能なのです。また、そんな家だから人もあつちやすいのでしょ。

大学生の弟はたまにサークル仲間を呼んで話し合いを始めたりすることもあります。

テレビドラマに出てきそうな兄弟が住んでいる気がする。かっこよく暮らせるか、小汚くなるか、人間のキャラクターに左右される空間であるが、あこがれる空間であることにはまちがいない。土間の魅力と祭空間の関係がないのがもったいない。

同じ家族が住戸内の様々な場を共有し、住宅に連続感を持たせるコンセプトに感動した。3人兄弟の設定も今後の新たな住まい方を予感させる。何より、共同行為・共通の場（公）を優先した間取り構成に圧倒される。個室主義の間取りから脱却した住戸空間の魅力もある。大黒テーブルや祭り空間としての居間のしつらえも交流空間として面白い。土間や台所・広縁空間も自然であり、千葉NTのラーバン性を示す提案内容である。

ギャラリーのある家

若林佐代子

千葉ニュータウンと共に生き

居住者プロフィール
夫: 58才
妻: 55才

“都市と田園の共生するまち”を

描き続けた

夫婦の住む家

子供も独立し

これから始まる

新しい人生...

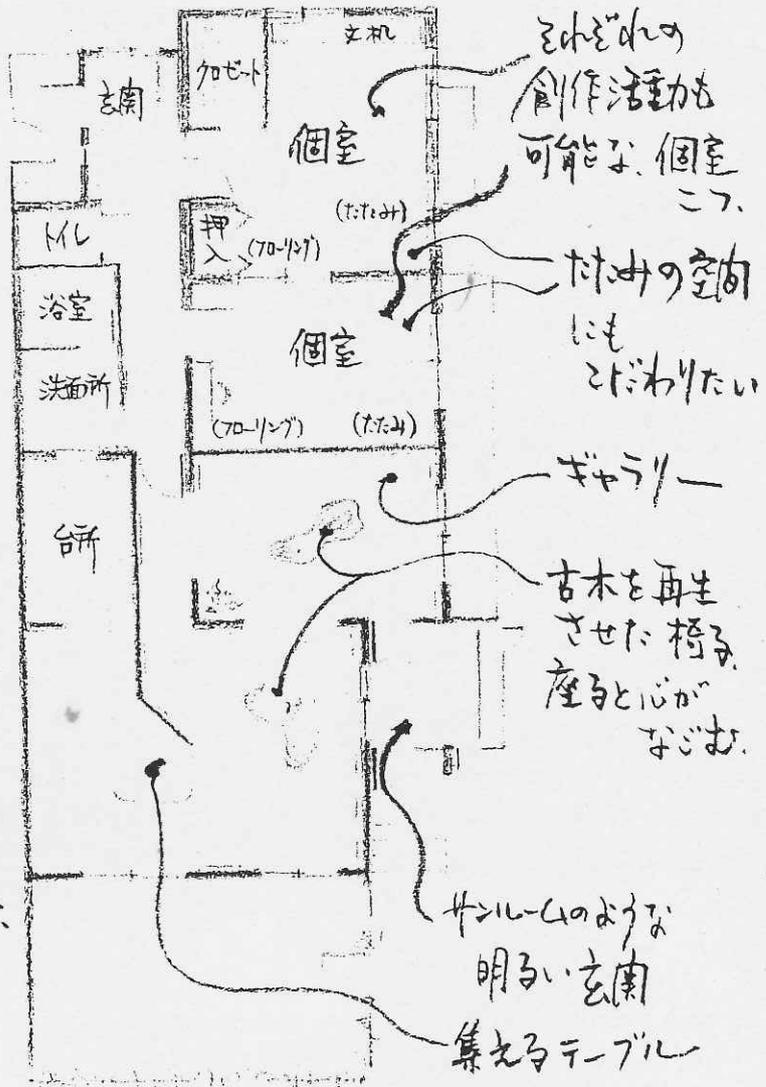
描き: ため: きた: 作品

公開する: ための

ギャラリーのある家

そして
友人が集える家

未知の友人と
出会う家



私の“ゆめいく住宅”
若林佐代子

イメージゆたかな小物もあり、プレゼンテーションもとてもよい。

「ギャラリー」はよいと思います。（家族を老夫婦としたので自由度を生かした）寝る場所のイメージがよくわからないのが難です。

広々とした家をギャラリーのように使うのはすてきでしょうネ。しかし、表現が少し舌たらずなのか、良さがいまいち伝わらないきらいがあります。

静かな熟成した住宅地の中の一軒家が似合うような提案で、NTの団地らしくないのが逆に新鮮に感じます。

ギャラリーと台所に続く「集えるテーブル」廻りの壁の扱いが良く、奥行きのある空間を感じさせます！その分個室廻りももう少し工夫と個性が欲しいところです。そして何より流れる美しい文字には見とれてしまいました！！

若林さんの「ギャラリーのある家」は、居住者の設定からみれば考えうる住まい方なのだが、自分の描いた作品を展示した極めて静的な空間（主役が作品である）に毎日暮らせるのかという素朴な疑問が選択を躊躇させた。住宅はあくまで住み手を中心ではないか、これがギャラリーではなく工房であったり、他の生活の場と作品が融合している場であれば理解できる。なによりも、すべての絵が心が和むもの、作品に囲まれた空間が心が和む空間とは考えられないのである。住み手の資質にもよるが、例えば私が友人として、2回は訪ねても良いが3回目にはまた同じ作品のある空間を訪れる気になるであろうか。

素敵な案である。表現もうまく、理想的と思える初老夫婦の住まい方が提案されているが、いかんせん生活感が乏しい。ギャラリー的住宅で暮らすことの価値や意味をもっと訴えるコンセプトや位置づけ、あるいは強い生活感が欲しいし、そうした生活シーンや具体的なシミュレーションがあると引き立つ案である。

南玄関を使った公開性の高いギャラリー空間がよいが、ギャラリー空間に日常の生活空間をうまく重ね合わせる方法が課題でしょう。細かなことでは、堅い、展示用の壁と部屋をつくることを優先しすぎ。キッチンテーブルが直線的に長すぎて回り込みに無理がある、創作活動を行う部屋と寝室が一緒なのは解せない、などがあげられます。

居住者イメージ 老年共働き夫婦

⊗ 田代 音楽家 61教授等
以上 家に居ることが多い

⊕ 田代 料理研究家
以上 ティークワーク研究家
外出が多い

共通の趣味は散歩

子供は既に独立している

来客は多いが泊まる客は
あまりいない

都内のマンションから買取った金持ち

食事は台所に置く作業台

(下部に台所用品を収納)

でカウンターに設置するが

夕食時は食堂の大テーブル

で済む

温室には 熱帯性植物や

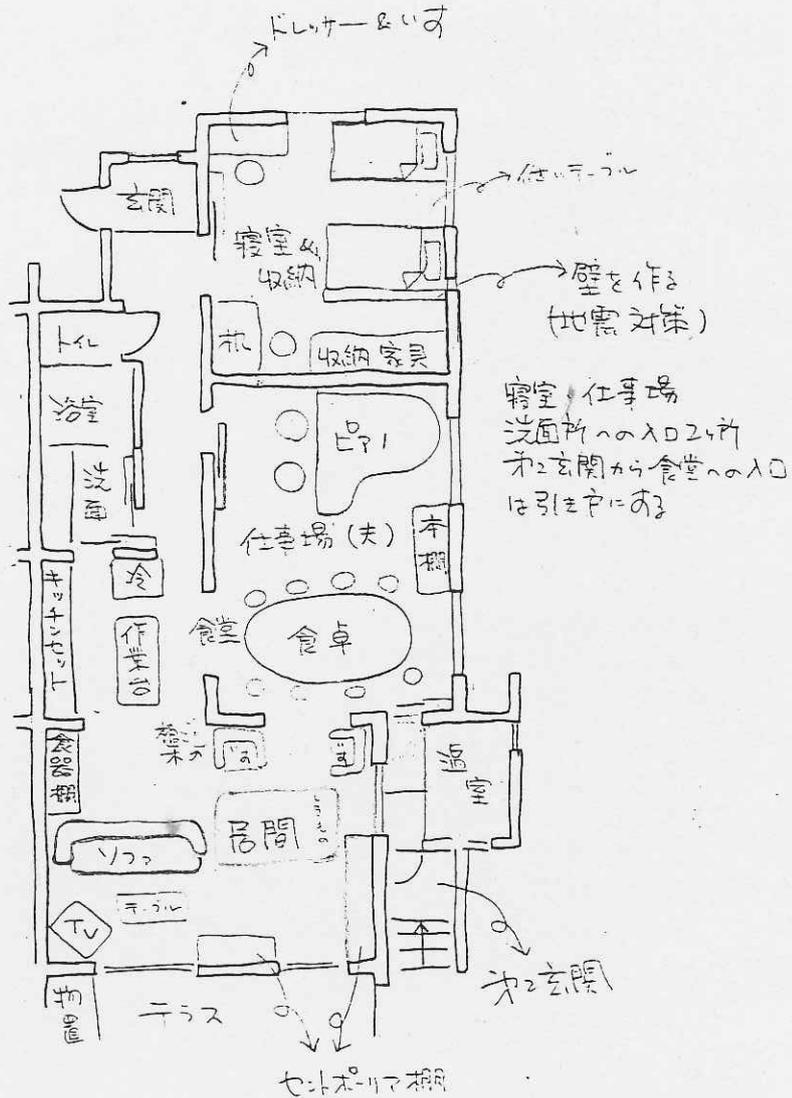
オウムなどの鳥がいる

居間はエスニックなイメージ

親しい友人やピエロの弟子は
この玄関から出入りする

プライベートスペース(寝室・浴室・洗面)以外は仕切りを
しない

物を表に出さないくらし方を
している



大部屋は大部屋らしく、大らかにつかう。建具がないのが楽しいが、書き忘れたわけではないのでしょう。

50才代夫婦で物を表に出さない生活するには収納がかなりいるはず。
ピアノ→食卓→居間のつながりがうまくイメージできない。
仕事場 D L

- ・空間イメージが豊かなので、配置が若干整理されるとすてきな案になりそう
- ・テラス、庭全体を木のデッキにして光のおおるキャンパスを廂状にかけ、居間と連続させるとトロピカルな空間が広がり、たのしそう

熟年共働き夫婦という想定には少し意表をつかれました！

第2玄関がオウムのいる温室というのは楽しい提案です。

寝室以外は間仕切りしないというのもVeryGoodです！

ただ、ひとつの連なった空間の中に、ピアノ、食事、居間、台所といった異なった用途があるのですから、そのためのなんらかの個性的な工夫が必要ではないでしょうか？

↑

低い家具で仕切るとか床の仕上げの違いとか
ローパーティション、ロールスクリーン・・・？

生活趣味レーションがしっかりできている。さばさばして、それぞれの個性を持ちながら共に暮らす楽しさのために役割分担もしっかりしている。

- ・温室に光があまりはいらない気がするのだけれど。
- ・テラスの使い方も見たい。

居間、食堂の空間と夫の仕事場が一体になっているために、錯綜した空間が生まれ、生活しにくいと思う。まず、夫の仕事場は確立しなければならないだろう。ピアノの音のことを考えても独立した空間が望まれる。他の音を完全に遮断する。（仕事中にテレビの音が聞こえるのはない）仕事上の客はどこで接客するのか、このとき、台所や食堂はほんとうに見えても良いのか、などもう少しプランを整理する必要がある。

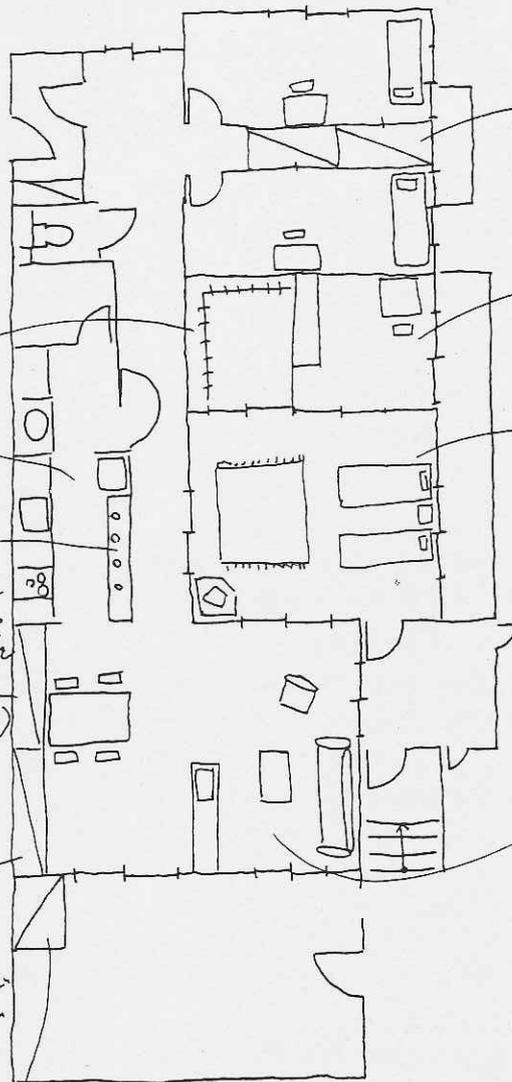
居住者設定及び趣味趣向が良く表現された案である。間仕切りの少ない連続する住戸空間も魅力的であり、作図工夫があれば上位にきた案かもしれない。

夫... 45才 リフリーマン
 妻... 43才 専業主婦
 子... 15才 } 中学生
 ... 13才 }

<提案その1>

の4人家族

自分たちの生活空間として。
 人を招くこと(フリ)・文字通り
 "マイ・ホーム"に重点を置く。



収納内で仕切ることによって
 お互いの音(音楽等)が
 気にならな。

主人の仕事部屋にも
 奥さんの趣味室にも

夫婦の寝室
 寝る(だけ)ではなく、
 空いたスペースはラックなどで
 敷いて、ソファとは違う
 くつろぎを...

空調設備も
 フリで、衣類の
 保管は完璧!

上下の収納
 食器やストーブの
 食品などの収納時に
 真ん中には炊飯器や
 エレキケトル等の電器類を
 上下に収納
 (日頃使うもの/食器など)
 真ん中の棚には
 絵や写真、花など
 を飾って...

全面収納
 掃除用具はひらきん。
 システムOFFの電化製品等の
 物置きでは保存できない
 ものを...

物置き
 庭付工の戸建と違い、
 集合住宅には収納が
 スキー板や工具など
 室内の収納とは
 ひと味違う使い
 がりやすい。

広々としたリビング、7インチ
 ローボードやチェストなどで
 簡単に仕切れる...
 目線が低い、することで
 広い空間が拓かれる。

★ 講評

モデルの設定が一般的でありながら、誰もが目を通しそうな提案として評価できる。(若干手直しが必要) <提案その2>は、ラーバンのこの規模の住宅に住む家庭として典型的なタイプの一例として、モデル設定を評価したい。住まい方についてはやや表面的なイメージしかないのが残念だが、おそらくこのような住まい方になると考えられる。もう少し生活の臭いが感じられたならよかった。例えば無職の父母が園芸が趣味であれば、園芸のスペースがどの程度用意され、手入れのための道具をしまう納屋がどこにあり、テラスでは座る場所があるのかないか、などまだまだ夢の広がる可能性があるプランだと思う。

2タイプの居住者設定(特に3世代家族)や、その切実かつ誠実な暮らしのシミュレーションは、応募案の中で群を抜いている。このユーメイク住宅を最も標準的に使うユーザー像の表現としても1等である。作図能力が若干劣るが、何かの特別賞を挙げたい案である。

エントリー1: 山田 由布子

<提案その2>

父... 65才 } ...無職
母... 65才 }

夫... 37才 ...サラリーマン

妻... 34才 ...専業主婦

子... 9才 ...小学生

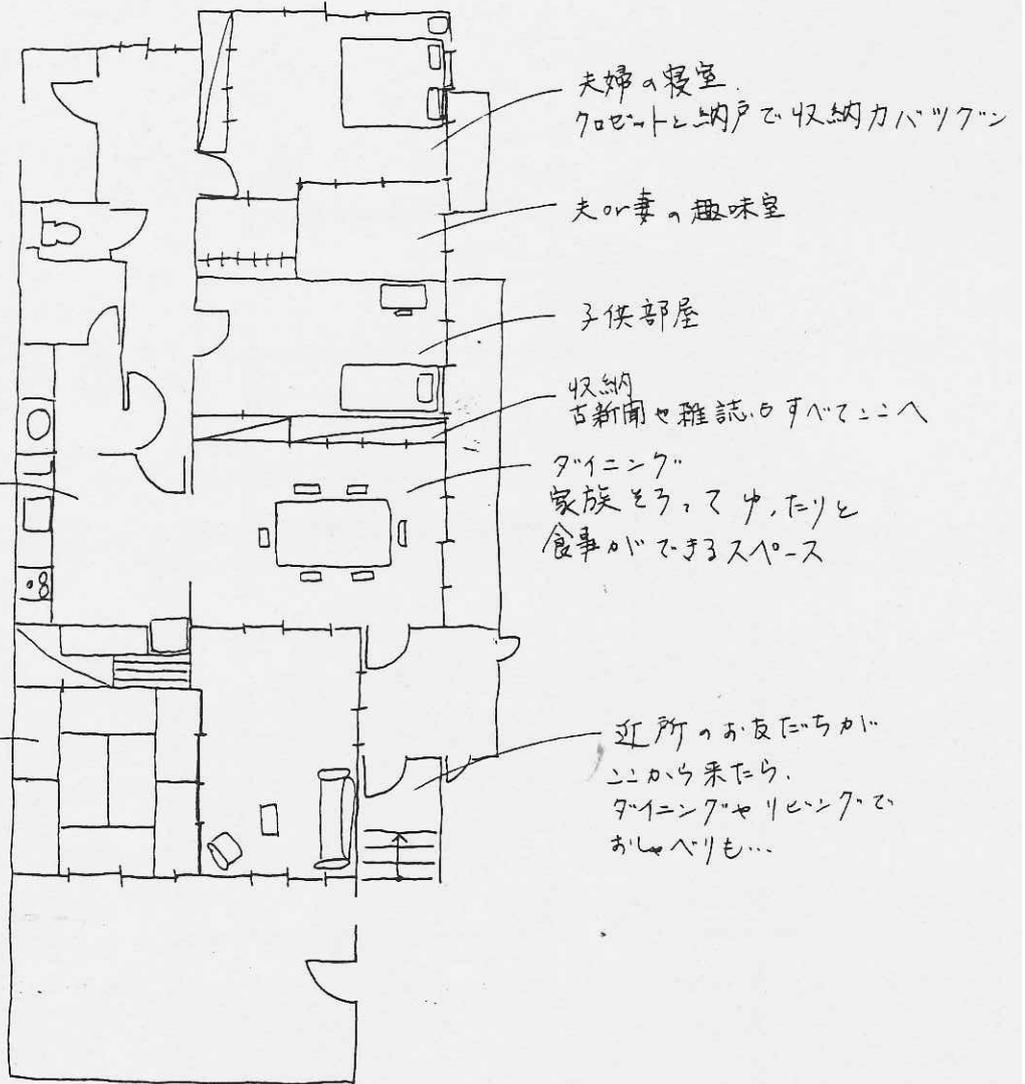
の5人家族

3世代同居の例

家族全員が揃ってコミュニケーションがとれるよう、LDKを真ん中に。

母・妻・子、3人で夕飯の準備にも充分な広さのキッチン

床の間をくっつけて両親も落ちつける和室。南向きで日当たりもよく、趣味の園芸も目の前のテラスで...



その1案は住まい方として最も安定した方向。もともとの住戸プランの問題でもあるが、北玄関からリビングまでの廊下が無駄な長さになっている。

その2は3世代のきずながしっかりしており、いつも明るい家族のためのプランとしてよい。

- ・こどもがまだ、小さいのでダイニングか、趣味部屋との直接的な関係があってもよい。

- ・また堅い家庭の場合、動線の変更が必要。

- ・弱点は来客者がキッチンを通してダイニング・リビングに行かなければならないこと。和室からキッチンへの直接動線も必要でしょう。

主婦らしい細かい配慮の行き届いた提案。2つの異なる家族想定もそれなりにポイントがおさえてあります。難を言えば「私たち家族だけの」他にない個性的な「間仕切り」の提案が欲しいところです。

その1案はオーソドックスな、安心感のあるファミリー志向プランですね。

その2案は、大きなダイニング、これも家族構成はちがうがファミリー志向の安定したプランかと思えます。

ユーメイクの必然性少ない。提案2の間取りはもう少しつめるとおもしろくなりそう。

(スケール感に気をつけて下さい)

その1案は、収納計画に配慮が行き届いたオーソドックスな良い案。住まい手の個性、趣味などが具体的にイメージされていれば、より活きた案になったのでは。

その2案は、3世帯同居でも、これなら住めるなど思える良い案。老人の空間が気持良さそう。

Dwork 真鍋さん.

おそくなりました。また、少々
雑になってしまいました。

また間に合うようにしてら

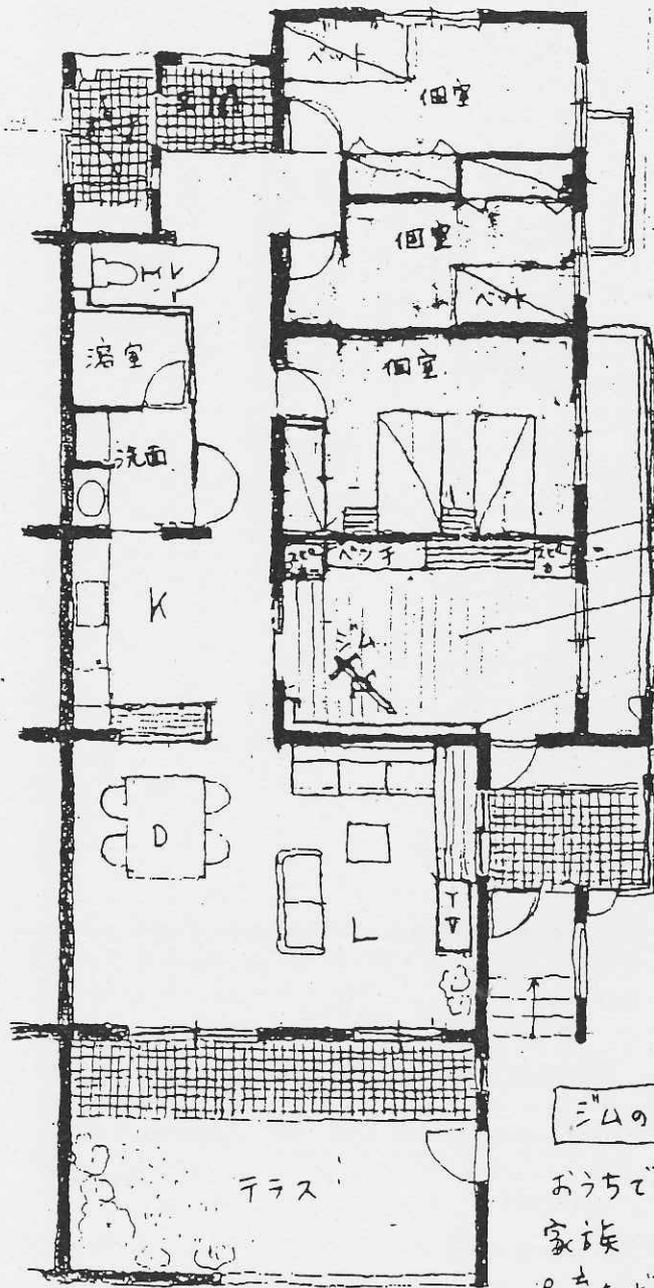
参加させて下さい。

R.S. 木曜 4時30分に行きます

R.P.S. あべさん、お給料を

早めにいただきますので

お願いします。イトウ



— 階段
— 音楽用 (エアロビクス、ダンス)
— 自転車置き
— 腹筋用のきかい
— 手すり などを置く。

ジムのある家

おうちでエクササイズ
家族

- 育ちざかりの息子 15才
- ダイエット中の娘 18才
- いつまでも若い主婦 40才
39才

キャラクターは分かりやすいが、ジムと他のスペースとの関係に一工夫ほしい。

ユーメイクの必然性少ないのでは。

ジムで体重減りすぎたので、食堂に改造してたくさん食べてちょうどよい体重になりました・・・とかいうのはあるかも。

40才、39才の夫婦は掛け値なしに若いのですが

- ・家にジムがあったらいいよね
- ・それなら、いっそのこと1室にとじこめなくて、家全体をジム空間にして、再構成してみたらおもしろいのでは

学業の合間におつかれ様です！

「おうちでエクササイズ」のテーマはVeryGoodなのですが、一室の提案にとどまらず、例えば家中の提案とかになればもっと良かったと思います。

伊藤さんの「ジムのある家」は、モデルの設定と空間の使われ方に無理があると思う。ジムは誰が使うのか。娘の空間とすれば、これに匹敵する息子の空間はないのか。息子と娘で使うのならジムから各子供部屋にアクセスするようなプランではないか。そこで、モデル設定を20代後半か30代の若夫婦にしていたらよかったのではないかと思った。

夫がやさしい（弱い？）家族のまとまりのある一般的家庭の暮らが見える。

- ・ジムの部屋が南玄関に接した場所であり、外部との利用形態の話が聞きたい。

家族設定とジム空間の提案は面白いが、間取り構成があまりに一般的。

● 工、双子なの？

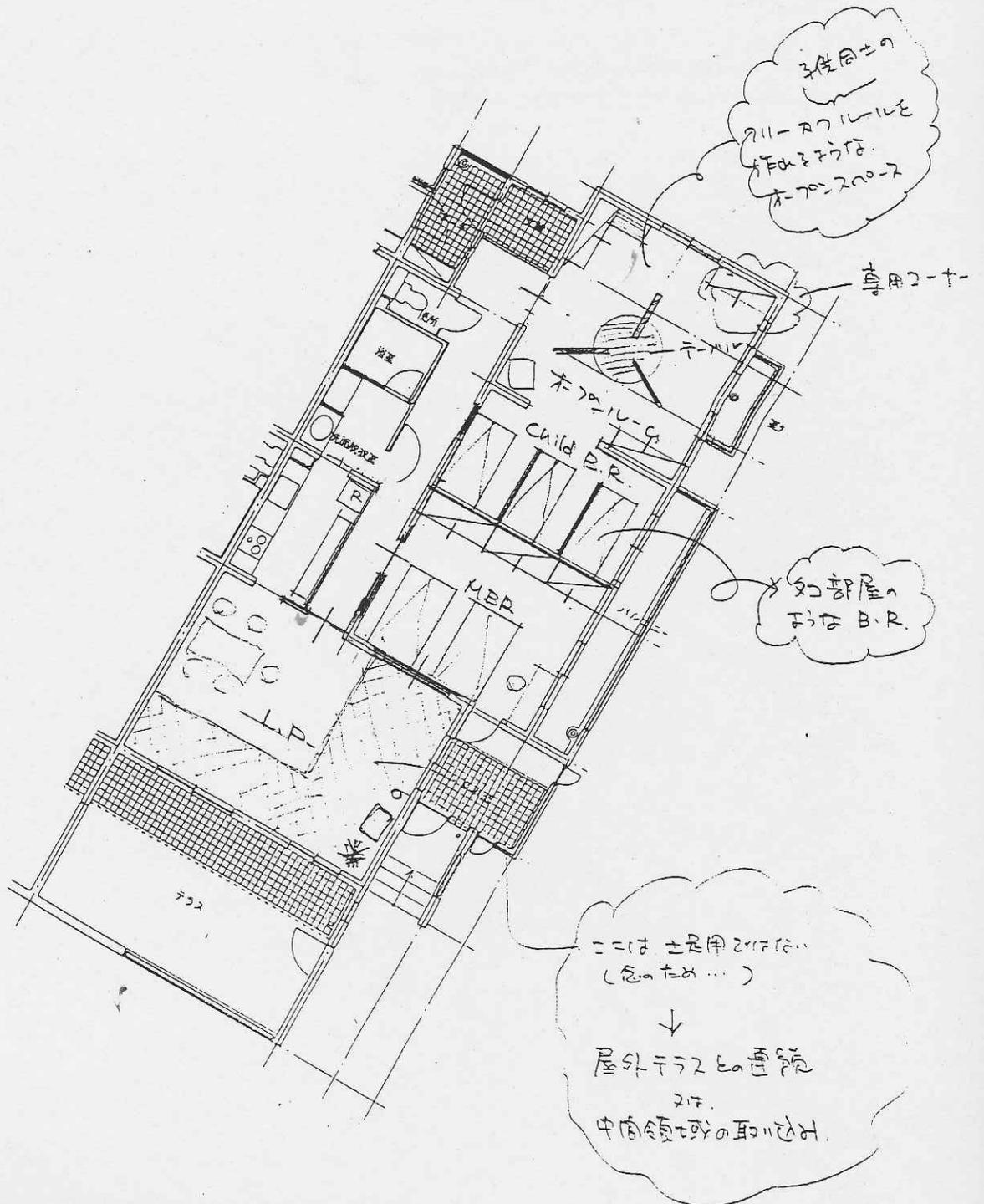
ススキさんだって歳をとる。子供をもう一人と思っていた
なんと双子になっちゃった。

夜も昼も考えた。引っ越さなくてはいけないのか？それと
さな部屋を増やすのか？

これからはススキさんは天啓の人と呼んでもいい。

夜、ススキさんは閃いた。

子供ごときに独立した部屋なんかいらねえ



- その1案；防音室+ α 、あと一つなにかSomething elseがほしい
- その2案；土間のつながりがダイナミックで楽しい
- その3案；子供部屋と公室部分のつながりに一工夫ほしい

ユーメイク住宅は悩める衆生を救う。困ったときに天啓をひらめかせてくれる融通のきく住宅とした点が良い。時間を追って手を加えていく唯一の提案。（前田さんは本当に独身ですか・・・？）

<その1・オーディオルーム案>

- ・ユーメイク住宅→オーディオルームと言うくらい素直な展開だけれど、素直すぎるのでは
- ・音楽をテーマに演奏とかパーティーを加味して、住宅を再編成してくれるとおもしろいだけれど

<その2・土間の復活案>

- ・個室をこざっぱりした土間でつなぐ案はどこか和風割烹みたい
- ・郊外団地でタイルの土間は汚れなどを考えるとあるのかな

<その3案 双子案>

- ・こどもにそれぞれ独立した部屋がいらぬのは賛成
- ・でもちょっと機械的すぎないか？
- ・庭への開口部分が限られている中で、屋外との連続を考えるとしたら、居間とテラス、庭を同質材で段差少なく作るのでは

前田君の文才は大いに認めます！

勝手に改造してよいというのは分譲住宅であればどこでも可能でしょう。

ユーメイクの主旨は今のお金のあまりないスズキさんでも家が買えて、家族の成長、暮らし方の変化に応じて少しずつ、自分たちだけの城をつくっていけるところですからそのあたりに文才を発揮して欲しかったと思います。

「スズキさんの3つの夜」は、物語として楽しいものがあるが、プランが生活を語っていないイメージが残念である。特にステージ2「●もっと地面と繋がるべし」は、ROOM1, MBR, 和室の各部屋が独立しながら土間を介するというのは、生活が現実的ではないと思う。これならいっそ完全に洋風の靴脱ぎをしない空間を提案するのはどうか。ステージ3「●エ、双子なの？」においても、北側にオープンルームを設けるならいっそ南の空間（リビングになっている）と外部のテラスを抱き合わせるほうが良いと思う。ストーリーと着想は面白いが、提案される住まい方は別のプランではないか。

<その1・オーディオルーム案>

オーディオルームで飲食するならキッチンとの関係がよくない。またMBR、LDと南玄関の関係がわからない。

<その2・土間案>

土間の復活ということだが、なんだか室内が汚れるだけの様な気がする。

<その3・双子案>

よい提案だが、徹底していない。オープンルームはLDとくっつけ親も使える空間のほうが良い。MBRが北側。

読み物的表現を用いた構成は秀逸であり、千葉NTの立地特性把握も群を抜いているが、提案空間が3タイプあり、コンセプトがわかりにくくなっているのが惜まれる。家族の成長に伴う間取り変更をもっと説明するか、1案に絞った間取り構成の提案が欲しい。

* 千葉NT 200-18 ニューマイ7 住戸

- ・ 家族構成 : 夫 (40) → 映像芸術家 (アパレルなど 家で仕事を時間が多い, 色々な人が 家にたづねて来る)
- 婦 (34) → 建築家 (仕事と夫婦間の愛を大切にしている)
- あかちゃん (1.5) → いつかここにこころを。

・ 全体コンセプト : 家で仕事をしている 夫のための空間を中心にし, 動線の流れを設ける。
夫婦間の愛にこたえられるロマンな座がっている部屋。+水回

* 日本式庭。

突然におもむきがついたら, ちんぷん。
日常のいそがしい生活の中でも, おちついた空間の中で, 30分でも 話しができる space。
佳

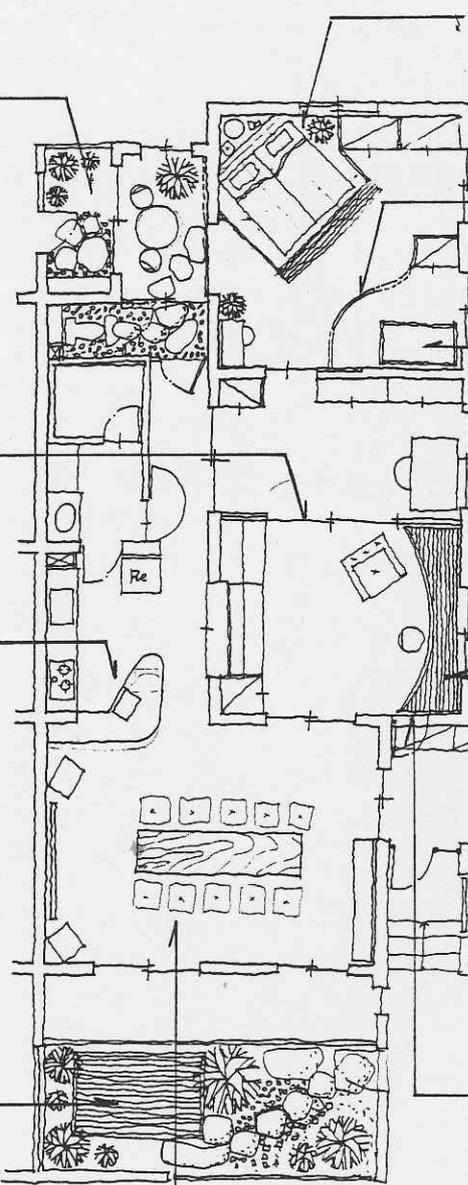
* 3本の 引き出しのまどで,
必要とされる時だけ 閉じる。

* キッチン

「食」というのを大切にしている
夫のために Living から open 仕える
キッチン を 設ける。女から家事にも OK。

映像スクリーン

H: 450mm
(夏になると 星をみながら
みんなと すがても 食べられる。)



H: 400 ; フロリング
下部は 収納を 設ける

H: 1800mm
おひかりの 壁にして, 視線を
遮るがため, 一体感を感じさせる。

あかちゃん space
ちんぷんになるまでに 母と同じ 部屋で
生活させたい。自分だけの 11の気持ち
あかちゃん space としても ちんぷんな空間

(Computer を 置ける space と
ふたつの つくえの 使い方が 違うのを
考えよ)
部屋の 一面をつくえにして,
効果的な 作業場と
部屋の 広さを 設ける。

たづねて来る お客を 仕事を
(ながらも ちんぷん する)。

えいがすまの 家族のために ミニシアター Living を つくる。

お客とると かなりの space に なるので, 友人同志に
ミニ コンサートも 行われる。

エントリー6 : イチャンスク

イメージが多く、楽しい。赤ちゃんスペースやミニシアターも楽しい

赤ちゃんスペースが新しいと思います。5才過ぎた時点での提案があれば良かったと思います。

気負いがなく、生活の様子がイメージされる良い案

- ・引戸で連続する空間は生活しやすそう
- ・お客さんも大勢きそう

夫婦2人の愛が伝わるロマンチックな提案です。

寝室のとなりの坪庭はVeryGoodです。星をかぞえながらのスイカもGood!

これからの家族の成長とともに工夫して住みこなしていくという何らかの提案があれば完璧です!

モデルのこの時点では、魅力がある。さらに映像のある暮らしを追求すればアピールできる。自宅を活動の中心とする設定に無理も無く、全体的な住まい方の提案にも大筋で理解できるプランである。友人たちも集まるミニ・シアターはテレビも映る大スクリーンにしたらどうか。また、北側の玄関を潰して和風の庭にしつらえたところが面白い。ただ、最も奥に設けられた空間で、夫婦の語らいの場としてほんとうに使いこなせるのかという不安がある。さらに、5、6年後には子供の部屋をどうするのか、このままでは主婦の居場所をどうするのかということも心配である。

南玄関が明解なのがよい。

生活スタイルに強い思いを感じる。

- ・寝室の作り方に、想像するスキップと実際の使いやすさのずれがあるように思う。こどもが6才になったときのプランを考えるとコストのロスが大きい気がする。
- ・日本式庭の明かり取りとして北玄関のドアをうまく活用したいね。
- ・日本式庭と寝室ベットの関係が不自然（子供ベットの位置と逆転したほうがよいのでは）。

ライフスタイル指向が良く表現されている案である。幼児を抱えた共働き夫婦の楽しげな暮らし振りが滲みでている間取り構成に好感が持てる。日本式裏庭と連続する便所のしつらえも面白いし、細かな家具レイアウトや高さ1.8mのスリガラス間仕切りも魅力的である。

- ★ 日頃ユーメイク住宅について考える時に、本当に可変性があるのかどうか、常に心配しておりましたが、今回の作品を見て、こんなに多くのバリエーションが考えられるのかと非常に安心しました。
私なりの基準としては、居住者の経年による家族数の増減及び年齢による生活スタイルの変化について、プラン展開をみてみました。
全体的な感想としては、キャリア組のプラン展開にユーメイクの可変性をおどろかされ、バイトの方々のプランを見て標準プラン（ユーメイクでない住戸）について確信を持てたといった感じです。個人的にひかれたのは土間空間の提案が2作品あり興味を持ちました。<竹内>
- ★ ユーメイクのPRとしては、間仕切りの少ない開放性と、将来の可変性、つくり込みの可能性をアピールした方がよいと思います。<熊谷>
- ★ 評価のポイントは、ユーメイクならではのプランを念頭に置きました。つまり標準的な間取りでは不可能な住まい方で、かつ1階の特性をうまく利用している案を評価しました。若林案、平林案は現実的で住む人の特性がよく表れていると思います。松本案は実現性は困難であるが発想が面白い。努力賞として前田案をあげたい。<伊藤>
- ★ たのしいプランを多数ありがとうございます。<井関>
—————以上東京支社
- ★ 住まいに対する思い入れの強さ、実現させるアイデア等から評価しました。それから平林、山田の両若奥さんの健闘が目立ちました。<大久保>
- ★ 個人的なライフスタイルの提案が多く、その表現も人それぞれで、大変良かったと思います。
けれど私が（このコンペのねらいのひとつとして）イメージしたのは、ゆるやかな間仕切りの提案ということでした！？
ライフサイクルの中でのライフスタイルはゆるやかに変化していくのが通常でしょうし、そのための住まいもゆるやかな可変性が求められると思います。最初からしっかり間仕切るのではなく、戸を引き込む工夫とか、間仕切り収納や、低い家具を使った自由で楽しい空間づくりの可能性など・・・そういった提案があればなお良かったと思います。<新見>
- ★ 千葉ニュータウンラーバンでの住まいとしての提案から、以下の点についてはモデル設定の要件であると考えた。
①「ラーバン：田園と都市の共生するまち」を気に入った人であること
②これだけの規模の住宅に住むことができる人
③この住宅の特徴を生かすこと。すなわち、住戸へのアクセスが南北2カ所ある。かなり広いテラスとバルコニーがあること。土（専用庭）に近い1階であること。
これらの点を満足するモデルを設定し、魅力ある住まい方を提案していると思ったのはいなかった。（みんなごめんね）
全体的にもう少しつっこんで欲しかったのは、この広いテラスの利用とラーバンという環境の中で活かされる暮らしかたであった。そのあたりがやや不足していると思う。<田中>

- ★ ベースとなっている住戸プランの特色として、ユーメイク住宅であることはもちろんだが、1F東端の住戸であり、テラス（庭）があり、出入口が2カ所あることがあげられる。この特色を活かすにはテラス・東側バルコニーに接する部屋の利用形態として、それをうまく取り込むことと2カ所の出入口をどう活用するかが鍵となる。もう一つは住戸内の動線として、北側出入口からテラス側にある部屋（居間・食事室）、及び南側出入口へのルートが廊下の形態で設定されていないので、生活スタイルに合わせてうまく設定できるかである。その視点で今回の作品審査を行っちゃったりして（言い訳）。

個人的には動線計画として通勤通学動線の方向性はないとして、北側出入口より南側出入口をメインにし、北側出入口は勝手口的な要素が望ましいと考えております。

・明るく日当たりのよい南側の一部を使つての出入口であり、それなりの積極的な活用が望ましい

（もったいない）

- ・直接自宅に入れる専用口であること。
- ・テラスを活用すればリッチな玄関にできる。
- ・道路から自宅までの空間が専用的に使える。
- ・北側玄関の場所が物置的に使える。
- ・問題点は南側出入口に接する部屋（多目的ルーム・居間・食事室の名）のどちらかに明解な廊下を設定する必要があり、部屋の使い方が限定されてしまうこと。〈中川〉

- ★ 短期間課題にしては、参加者が多かったことを評価したい。事務局（真鍋）のキャラクターに負うところ大である。主婦・学生バイトの参加も有効であった今後の社内コンペの参考になるし、こうしたイベントを断続的に行う価値がある。

ディワーク=5名と東京支社=4名審査は、全く異なる結果となった。全体的にみると、支社は実務の評価を優先し、ディワークはスタッフの潜在能力評価にウエイトを置いている。支社の悩みは、ユーメイクといえども確認申請時点での完成した住戸空間を求められるため、できる限り間仕切りの少ない間取り構成での住まい方を大切に結果となった。支社評価が、1位：若林、2位：前田（1位と僅差）、3位：平林なのは、現実的ユーメイク住宅としての暮らしイメージの確かな評価と理解される。対して、ディワーク評価が、1位：松本、2位：李（1位と僅差）、3位：平林となったのは、ユーメイク住宅提案への評価より、個人の住宅観・いえ観あるいは住宅設計そのものの造詣や愛着を加味した評価を下したのでは、と推察される。総合評価は、1位：松本、2位：李、3位：若林・前田（同点）であったが、支社審査員が1名プラスされ同数になると、順位が入れ替わることも予想され、参加者の力量や着想が拮抗していたことが伺える。

〈藤沢〉

—————以上ディワーク（順不同・敬称略）

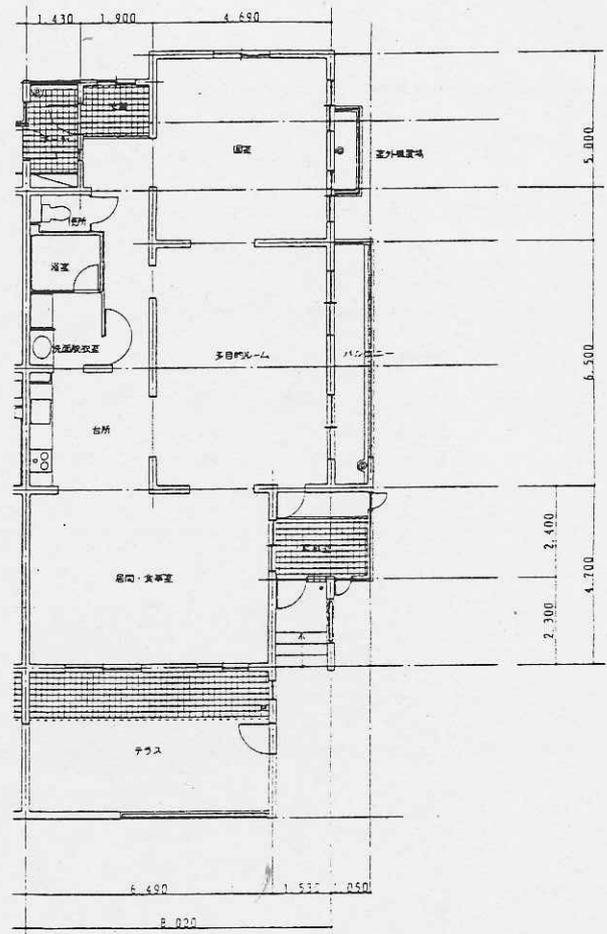
編集後記

予想外に盛り上がりうれしい限りです。

短かい時間にもかかわらず、ガッツ！気合い！スピード！で作業をしていただいた皆さん、連休前の慌ただしさの合間に、辛口甘口とりまぜて批評をしていただいた皆さん、ありがとうございました。好きなように絵を描くこと、それに好きなように批評すること、両者とも存分に楽しさが味わえたのではないかと思います。またやりましょうねえ〜。〈企画・運営・事務局 真鍋〉

対象住戸

千葉ニュータウン7 駅圏 200-18 B L
 15号棟 (5階) 1F 妻住戸 122.39㎡



期間・体制

募集期間；平成7年4月10日～4月18日
 審査期間；平成7年4月19日～4月26日

参加者紹介 (提出順)

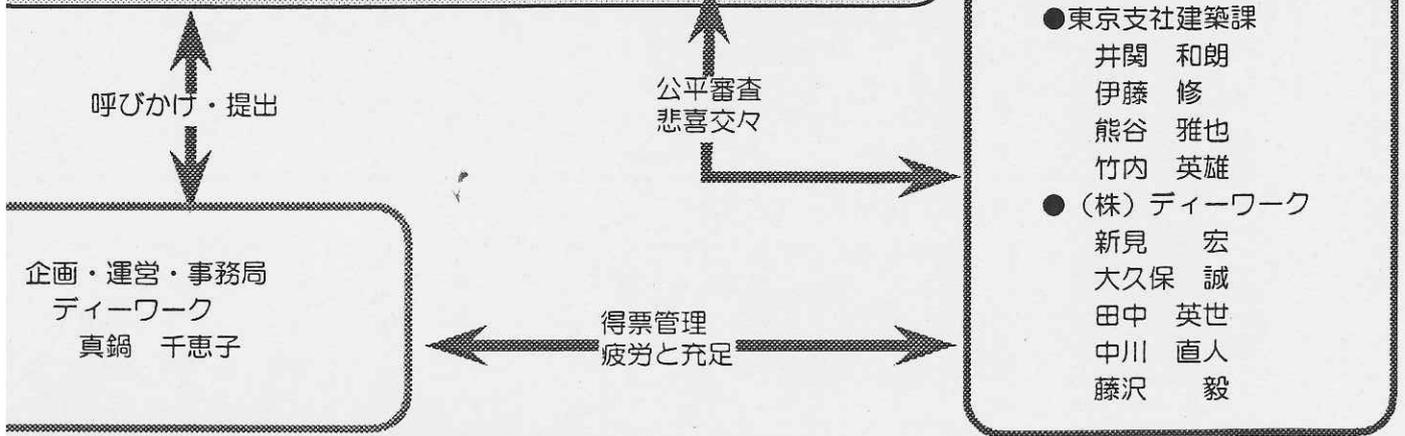
全て当社スタッフ

- エントリー1：山田 由布子 <主婦バイト・20代>
- エントリー2：若林 佐代子 <キャリア3年・独身>
- エントリー3：松本 寛之 <キャリア3年・独身>
- エントリー4：伊藤 明子 <建築科学生バイト>
- エントリー5：前田 啓文 <キャリア9年・独身>
- エントリー6：イチャンスク <キャリア6年・独身>
- エントリー7：平林 京子 <主婦バイト・30代>

審査方法；
 持ち点6点で3位まで評価、合計
 得点の高かったものを大賞とする
 (EX.1位3点、2位2点、3位1点など)

<審査する人>

- 東京支社建築課
 - 井関 和朗
 - 伊藤 修
 - 熊谷 雅也
 - 竹内 英雄
- (株)ディーワーク
 - 新見 宏
 - 大久保 誠
 - 田中 英世
 - 中川 直人
 - 藤沢 毅



1995. May
Vol. 1